

令和4年度（2022年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

刑 法

A日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和4年度（2022年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（各5点）

以下の語句あるいは概念を説明しなさい。解答の際は、定義だけを記述するのではなく、学説の議論状況や判例の状況など解答すべき内容を問題に応じて自ら選択し、具体的な事例を自ら設定したうえでそれぞれ解答用紙5行程度で解答すること。

（1）住居侵入罪の保護法益

（2）背任罪における凶利加害目的

問題2（15点）

次の事例におけるXおよびYの罪責を論じなさい。ただし、特別法違反の点は論じる必要はない。

Xは、自分が所属する勢力と対立するAを闇討ちして傷害を負わせようと考え、深夜持っていたカッターでいきなり後ろからAの右ふくらはぎを切りつけ動きを封じた後、Aに対して殴る蹴るの暴行を加えた。満足したXはその場にAを放置して立ち去った。その2時間後、現場にYが現れた。Yは仕事で嫌なことがありむしゃくしゃしていたため、倒れているAを見て暴行しようと考え、近くに落ちていたとがった石をAの顔に投げつけたほか、顔面を手拳で複数回殴打した。最終的にAには脳内出血、腹部内出血、右ふくらはぎの切創および顔面部の切創ならびに内出血が生じ、脳内出血を死因としてYによる暴行の約1時間後に死亡した。鑑定の結果、Aの死因となった脳内出血はXによる暴行の時点ですでに生じていたが、Yが加えた暴行により出血が促進され、死亡時刻が2時間程度早まったことがわかっている。

以上